第 97 回 (2021 年 4 月度) 監査技術ゼミ 結果報告

運営委員長 菊谷 純
(文責: 松下 洋二)

1. 開催日時 2021 年 4 月 12 日(月) 午後 2 時 00 分～午後 5 時 00 分
2. 開催方法・場所 ZOOM を利用したオンライン会議方式
講師は勤務先より解説
司会(委員長)は自宅にて進行
委員は自宅または職場にて参加およびオンライン会議のサポート
3. テーマ 「内部統制に関する提言」の解説と監査役への期待
4. 講師 東京霞ヶ関法律事務所 弁護士 遠藤元一氏
5. 出席者 56 名
6. 配布資料 (事前に参加予定者にメールで送付)
「監査懇話会監査技術ゼミ 内部統制に関する提言『内部統制報告制度導入後 10 年が経過した実務上の課題』の解説と監査役に対する期待」
東京霞ヶ関法律事務所 弁護士 遠藤元一 2021 年 4 月 12 日

7. 議事次第

1) 運営委員長より開会の挨拶

菊谷運営委員長よりオンライン参加者の ZOOM 接続状況を確認したのち、開会挨拶と本日テーマ紹介を行い、講師の遠藤弁護士を紹介された。

なお出席者の内、旧独立委員会セミナーも含めて当ゼミへの初参加者は以下の 1 名
三菱電機インフォメーションシステムズ(株) 監査役 山川晃氏

2) 講義

午後 2 時 4 分より 3 時 28 分まで、講師から資料に従って丁寧な解説がされた。なお、事前に提出された質問については資料解説の過程で逐次解説された。

3) 質疑応答および意見交換等

10 分間の休憩およびチャット記入時間をはさみ、午後 3 時 38 分から 4 時 55 分まで出席会員会友との質疑応答が行われた。なお、質疑は ZOOM のチャット機能に合わせて口頭での質疑も受け付けた。参加者からの主な質問や意見は事前質問も含めて以下の通り。

- ・ 提言 1 に関して、内部統制報告書制度が 10 年前に比べて改善した点や改善が不十分な点および現行の内部統制制度の深刻な問題点
- ・ 提言 6 に関して、監査人の監査報告書をダイレクトレポート化することへの賛否
- ・ 提言 7 に関して、取締役を求める法務・財務会計知識とは
- ・ 提言 7・8 に関して、大局的な見地からの統制環境の整備とは

- ・ 提言 7・8 に関して、内部監査部門の独立性を確保するための、内部監査部門の法制化（ハードロー）や制度化（ソフトロー）
- ・ 提言 8 に関して、社長に推薦された社外取締役に期待できるのか
- ・ 提言全般に関して、これだけ内部統制を制度化しても不祥事が絶えない理由
- ・ 監査役が自分の権限を十分行使していない
- ・ 内部統制運用評価のマニュアル化はベストではないがベターではないか
- ・ CGC が求める株主と監査役の対話で株主が監査役に期待することは何か
- ・ 内部監査のダイレクトレポートは良いとしても、内部監査の質と量がどうあるべきか見えない。少なくとも内部監査人の選任に監査役が同意することは必須ではないか
- ・ 社外取締役が責任を負わない仕組みを変えるべきではないか
- ・ 会社法と金商法の内部統制制度を一元化できないのか
- ・ 内部統制の有効性を評価・監査する現行の枠組みに限界はないか。○か×の判断よりも、不備の識別に基づくプロセス改善であるべき
- ・ 会計監査人の内部統制に関するダイレクトレポーティングは会計士への過大評価ではないか。会計士は内部統制のプロとはいえない
- ・ チェックリストのチェックの評価根拠は「80%満足していれば○」と変えていくべき
- ・ 日本の監査役制度が海外で理解されない理由
- ・ 指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、監査役（会）設置会社の3方式の中でどの方式がベストか
- ・ CGC 案の「取締役スキルマトリックス」は○×方式か

4) 委員長より閉会の挨拶

質疑応答の後、菊谷運営委員長が講師に感謝の意を表されるとともに、参加者に対しアンケートへの協力要請を行った（後日メールで発信）。

さらに、次回の監査技術ゼミは5月14日に開催予定の旨案内した後、閉会となった。

以上